



安全・安心をお届けいたします

きらきら Eyeランド
JA庄内みどり

グリーンプロジェクト情報 第6号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

有効茎確保は6月20日頃まで！ きめ細かな水管理で茎数確保を！！

今年は移植後、「平均気温はやや高く」、「日照時間は平年並」、「降水量は少なく」経過し活着は良好となりました。その後の「平均気温はやや低く」、「降水量が少なく」、「日照時間はやや少なく」経過し、生育は概ね平年並となっています。引き続き状況に応じた水管理に努め、分けつの発生を促しましょう。（生育診断圃「はえぬき」の茎数は平年よりやや少なく経過していますが、移植時の植込本数が平年よりやや少ないことが影響していると考えられます。）

仙台管区気象台の1か月予報（6月1日発表）によると、気温はやや高く、日照時間・降水量は平年並に経過すると予想されています。有効茎決定期は6月20日頃です。圃場をよく観察し目標茎数の8～9割を確保でき次第、遅れずに中干しへ移行しましょう。

◎現在の生育状況（5月31日現在の生育診断圃データ）（ ）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 数	葉 色
はえぬき	24.7 cm (96)	168 本/m ² (89)	5.9 葉 (+0.5)	37.1 (+2.8)
つや姫	28.9 cm (105)	176 本/m ² (133)	5.3 葉 (+0.6)	31.1 (+0.2)
雪若丸	20.1 cm (93)	163 本/m ² (109)	5.4 葉 (+0.1)	31.5 (+2.0)

【移植日】「はえぬき 5/10」「つや姫 5/11」「雪若丸 5/8」

◎土壌アンモニア態窒素残存量調査結果

（5月31日現在の水田農業研究所データ）

現時点での土壌アンモニア態窒素の残存量は、“平年より多い”と推察されます。

単位：mg/100g 乾土

品 種	令和5年	平年値	平年差
はえぬき	7.0	4.7	+2.3

技、其の一 状況に応じた水管理で有効茎数の早期確保を！

- ①温暖な日は分けつの発生を促すために日中は止水で中水管理（5cm前後）を励行し、茎数の少ない圃場は、日中は3cm程度の浅水管理を励行しましょう。水の補給は夕方または早朝に行ない、昼夜の日較差をつけ、分けつの発生を促しましょう。
- ②低温時や強風が続く場合は、一時的に深水にして稲体を保護しましょう。
- ③強風などによる稲体の消耗が原因で葉色低下が見られる場合、圃場全体を確認し窒素成分で1kg/10a以内の追肥を行いましょう。（はえぬき、雪若丸）

ただし、乾土効果は大きいと予想されていますので、安易な追肥は控えましょう。

技、其の二 といにぼした水田雑草の除草対策！

○ノビエ対策

- ・トドメ MF1[※]粒剤：ノビエ5葉期まで1.0kg/10a
 - ・クリンチャー1[※]粒剤：ノビエ4葉期まで1.0kg/10a、5葉期まで1.5kg/10a
- 湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間は湛水状態を保つ。葉数の進んだノビエを処理する場合はトドメ MF 乳剤またはクリンチャーEWを使用して下さい。

○広葉雑草対策

- ・バサグラン粒剤：3～4kg/10a（晴天が2日以上続くときを選び、必ず落水状態で散布し3日間は入水しない）
- ※上記3剤は特別栽培米には使用できません。

技、其の三 田ワキ・表層剥離が見られる圃場では早めの対策を！！

今年は移植後の天候が周期的に変化したものの、比較的温暖な日が続いたため、一部圃場では土壌の還元が進み、田ワキと表層剥離の発生が見受けられました。土壌が還元状態になると、有害ガス（硫化水素）の発生により根が傷み、葉色が低下し初期生育に大きく影響を及ぼします。下記を参考に、早期に対処しましょう。

☆主な対策

- ・田ワキの強い圃場では、温暖な日に2～3日程度の田干しや水交換を行い、酸素を十分に補給し、根の回復を図りましょう（但し、高温時や低温時、強風時の田干しは避けましょう）。また、田干し後の入水時に「V S こがね液（5ℓ/10a）」や「ファイトアップ（250g/10a）」の使用も効果的です。
- ・表層剥離、アオミドロが多い圃場では水交換を行い、発生を抑制しましょう。

技、其の四 有効茎数を確保したら作溝・中干し（6月20日頃）を！！

今年は生育量が全体的に平年並で推移しています。登熟に影響を及ぼす重要素根の伸長を促すため、圃場をよく観察し目標茎数の8～9割（「はえぬき」で坪当たり株数70株の場合、1株当たり19～21本程度）を確保したら、直ちに中干しに入りましょう。

技、其の五 こまめな圃場観察で病害虫防除！

1. 葉いもち

オリゼメート粒剤の散布を予定している場合は、6月20日まで散布しましょう。散布が遅れると効果が劣るので注意して下さい。また、圃場に放置されている補植苗は、葉いもちの発生源になりますので直ちに処分しましょう。

2. イネミズゾウムシ

50株当たり25頭以上の発生では減収が懸念されます。直播圃場では、初期害虫の対応薬剤を使用していないため、被害の拡大が心配されます。食害が目立つ圃場では、トレボン粒剤(2kg/10a)で対応して下さい。※特別栽培米には使用できません。

3. カメムシ

県の病害虫防除所によると、今年の発生は“やや多い”と予想されています。カメムシ類の発生源は、農道・畦畔及び休耕田の雑草です。圃場周辺の雑草地を含めた草刈を行いましょう。圃場内においてはイネ科雑草（ヒエ）、ホタルイ等の除去と、防除を徹底し、地域ぐるみで発生密度の低減を図りましょう。

【 水稻直播栽培の管理について 】

直播は栽培方式により管理が異なります。下記に留意し、早めの茎数確保に努めましょう。また、病害虫の発生状況もこまめに観察しましょう。(技、其の五参照)

◎乾田直播 (V溝等)

- ・本年の播種作業は概ね4月中に終了し、出芽・苗立ち状況は良好のようです。
- ・稲の葉数が2葉に達したら入水し、湛水状態が安定したことを確認してから直播に登録のある一発除草剤を散布しましょう。

◎湛水直播 (鉄コーティング等)

苗立ち数は播種日や圃場条件によってバラツキがあります。苗立ち数を確認し以下の対応を実施しましょう。

苗立ち数は80~120本/m²が目安となります。80本/m²以下の場合は3~4葉期に窒素成分で1kg/10aの追肥を行い、浅水管理で茎数の増加を図りましょう。また、5葉期に270本/m²に達していない場合は再度追肥を行ないましょう。

- ・直播栽培でノビエの取りこぼしがある場合は、以下の除草剤で対応しましょう。
トドメ MF1キロ粒剤：ノビエ4葉期まで 1.0kg/10a (稲3.5葉期~)
トドメ MF乳剤：ノビエ6葉期まで 200ml (散布液量25~100l) /10a

【 大豆栽培情報 】

播種適期は6月10日までです。播種が遅れる圃場は播種量を3割程度増量し、生育量確保を図りましょう。病害虫防除所によると、今年はネキリムシ類の発生量は、“平年並”と予想されています。クルーザーFS30、クルーザーMAXXを使用していない圃場や例年多発するところでは圃場の見回りを徹底し、被害が見られる場合は「ネキリエースK」で防除しましょう。(■使用量:3kg/10a ■使用時期:大豆本葉2葉期まで)



気象変動に負けない! 庄内みどりのつや姫・雪若丸

つや姫・雪若丸情報コーナー



○ 6月の管理が最重要! 水管理の徹底でしっかり茎数確保!

3~4cm程度の浅水管理で分けつの発生を促進しましょう。ワキが見られる場合は程度に合わせて水交換や夜間落水・田干しを行い根の傷みを最小限に抑えましょう。

☆目指す目標茎数は「つや姫」440本/m²、70株植えて1株20~21本です。
「雪若丸」580本/m²、70株植えて1株27~28本です。

☆6月16日(金)10:00~、「つや姫」「雪若丸」現地検討会を開催します。参加希望者は各営農課へお問い合わせください。皆で生育を確認しましょう!

「収量・食味アップ対策」

天候不順(高温・低温・日照不足・強風)に負けない、収量アップ対策として、ケイ酸資材等を積極的に投入しましょう。

- OKSK28(流し込み液体ケイ酸資材) 1.4kg/10a 出穂30~35日前
- けい酸加里プレミア34(粒状ケイ酸肥料) 20kg/10a 出穂35日前
- ファイトアップ(投げ込み植物活性剤) 500g/10a 出穂30~45日前

園芸情報

★長ネギ：定植後の管理とポイント★

①排水対策の再確認をしましょう。

これから梅雨に入ると、長雨や集中豪雨などで雨水が圃場に浸水・停滞する恐れがあります。水が停滞すると、ねぎの生育が弱り軟腐病の蔓延や他の病気にもかかりやすくなります。今のうちに明きよ等の排水対策の確認をしましょう。

②ネギハモグリバエ対策

一昨年から、従来よりも多数の幼虫が集中的に加害する別系統の発生により、葉の白化症状が見られています。多発した場合、防除による害虫の密度低下が困難になります。

【対策】

- (1)葉に産卵痕や幼虫による白い筋状の食害の有無をこまめに観察して早期発見に努める。
- (2)発生前の殺虫剤(粒剤)の処理や発生初期の薬剤散布を実施しましょう。
※薬剤は従来と変わらず、ネギハモグリバエ・ハモグリバエ類に適用のある殺虫剤で対応しましょう。

③軟腐病対策

- 病原菌は細菌です。土壌及び水によって媒介され伝染します。かん水や降雨などによって土とともに跳ね上がり、周辺に飛散し伝播したり水とともに土壌中を移動し蔓延します。
- 発病適温は30~35℃で高温期に土壌湿度が高いと発生が多くなります。
- ねぎの根部や葉鞘軟白部の傷口から侵入し、増殖します。

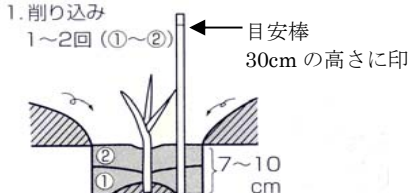
【対策】

- (1)排水対策(明きよ)の徹底。
- (2)高温となる日中はかん水や土寄せ等の管理を行わない。
- (3)薬剤による予防防除(詳しくは最寄りの園芸センターに問合せ下さい)。

④削り込み

時期：葉鞘の太さが7mm程度になった頃(おおよそ定植1ヶ月後)と、さらにその15~20日後に2回目を行います。

目標：2回目で地面が平らになるように。
中耕・除草を兼ねて、1回あたり約3~5cm程度の土を寄せます。



【注意!】毎年ドリフト被害の相談があります。ドリフトが原因で農産物の流通(出荷・販売)が不可能になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。畦畔及び転作田の除草剤(茎葉処理液剤)を散布する際は周辺作物に十分注意し、風のない日と時間帯を選び、ドリフト低減ノズルと飛散防止カバーを必ず使用しましょう。

特別栽培米圃場の農道・畦畔では、除草剤(茎葉処理液剤)の使用はできません!

★次号の発行は6月20日です!